

感染症の流行・発生状況について
 2023年第28週(7月10日～7月16日) 診断分

● 2023年第28週の警報・注意報

警報	注意報
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(宮古保健所) 伝染性紅斑(北部保健所)	なし

● 2023年第28週全数報告について(南部保健所管内)

《二類感染症》 結核 3件

● ヒトメタニューモウイルス感染症について

昨年度、南部保健所管内において、乳幼児を中心にヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症に伴う急性細気管支炎が認められており、人工呼吸器を必要とする重症例も認められました。hMPV感染症は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、法)で規定される1～5類感染症ではないため、沖縄県における流行の実態が把握できておらず、流行状況の把握目的にて、南部保健所では法第15条第1項に基づき、昨年度7月から積極的疫学調査を実施したところです。

本年度においても、南部管内8小児科定点の協力の下、ヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症の流行をいち早く感知するため、引き続き積極的疫学調査を実施しています。

他の感染症とあわせて、以下の一覧表で還元していますので、ご参考にしてください。

● RSウイルス感染症について

現在、本県ではRSウイルス感染症患者が増加しています。

感染症発生動向調査によるRSウイルス感染症の患者報告数は、令和5年第28週(7月10～16日)に、定点当たりの報告数が4.97人(定点医療機関31カ所、報告数154人)となり、ここ数週間は増加傾向にあります。

RSウイルス感染症やヒトメタニューモウイルス感染症は、新型コロナウイルス感染症同様に感染予防策として「手洗い」、「マスクの着用(咳エチケット)」が重要となります。

これらの呼吸器感染症対策の周知について、ご協力いただきますようお願いいたします。

※定点医療機関とは、インフルエンザなど18の感染症について、患者の発生情報を提供する医療機関のことです。定点1医療機関あたりの平均報告数で、感染症の流行状況を把握しています。

沖縄県全体報告数

南部保健所管内報告数

疾病名	定点区分	25週	26週	27週	28週	28週
		6/19	6/26	7/3	7/10	(定点あたり報告数)
インフルエンザ	インフルエンザ	39	24	38	36	(0.67)
咽頭結膜熱	小児科	10	1	11	16	(0.52)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	小児科	44	63	66	69	(2.23)
感染性胃腸炎	小児科	80	66	54	85	(2.74)
水痘	小児科	2	2	2	2	(0.06)
手足口病	小児科	15	7	8	9	(0.29)
伝染性紅斑	小児科	0	0	0	8	(0.26)
突発性発疹	小児科	5	6	7	5	(0.16)
ヘルパンギーナ	小児科	14	23	19	28	(0.90)
流行性耳下腺炎	小児科	1	2	4	5	(0.16)
急性出血性結膜炎	眼科	0	0	0	0	(0.00)
流行性角結膜炎	眼科	11	8	7	8	(1.00)
細菌性髄膜炎	基幹	1	0	1	0	(0.00)
無菌性髄膜炎	基幹	0	0	0	0	(0.00)
マイコプラズマ肺炎	基幹	0	0	0	0	(0.00)
クラミジア肺炎	基幹	0	1	0	0	(0.00)
RSウイルス感染症	小児科	135	137	150	154	(4.97)
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	基幹	0	0	0	0	(0.00)
COVID-19	COVID-19	2,132	2,613	2,250	1,719	(31.83)
ヒトメタニューモウイルス(hMPV)感染症						

25週	26週	27週	28週	28週
6	3	17	2	(0.14)
0	0	2	2	(0.25)
12	22	15	12	(1.50)
38	14	14	28	(3.50)
0	1	2	1	(0.13)
7	1	2	4	(0.50)
0	0	0	0	(0.00)
0	1	1	0	(0.00)
4	15	11	17	(2.13)
0	0	1	0	(0.00)
0	0	0	0	(0.00)
7	5	3	4	(1.33)
1	0	1	0	(0.00)
0	0	0	0	(0.00)
0	0	0	0	(0.00)
0	1	0	0	(0.00)
35	41	35	41	(5.13)
0	0	0	0	(0.00)
711	849	710	576	(41.14)
14	16	12	15	(1.67)

警報
なし

※クラミジア肺炎については、オウム病を除く。